



400年後の日本

アムステルダムに行ってきた。オランダから呼ばれるのは、1月のロッテルダム映画祭、7月のロッテルダムでのギャラリーに続いて、今年だけで3回目。正直に言うと、オランダという国そのものに、食傷気味ではある。「仕事で海外に行けていいですねー」とよく言われるが、ほとんどがホテルと職場の往復なので、それ以外の場所を楽しむ余裕は、あまりないものだ。実際、アムスの観光地として知られる、アンネ・フランクの家も風車小屋も行ったことがない...

しかし、それを補ってあまりある楽しみが、人との出会いやイベントの内容というソフト的な部分だ。今回、招いてくれたのはアムステルダム大学の夏期講座で、「イミュレーション」をテーマとする講演会だった。私は、テレビゲームの本場から来た(笑)専門家ということになっており、ゲームデザインとイミュレーションについてしゃべったわけだ。

ゲームのイミュレーターとは、プレステやアーケード用のゲームを、パソコンでプレイするためのソフトで、市販されているものもあるが、多くは法的グレーゾーンに属する。ここでは詳述しないが、商用ゲームがネット上にゴロゴロ置かれているという状況は、音楽における違法MP3サイトに匹敵する大問題なのだ。

さて、「イミュレーション」で「ゲーム」と来るのはあたりまえだが、この企画がユニークなのは、生物学、シンセサイザー、実験文学、現代美術の専門家も招いていた点だ。コンピュータが作り出す人工生命、楽器の音を真似るシンセサイザー、カットアップといふ切り張り技法を使う文学、そして「引用」を多用する美術など、さまざまな分野を「イミュレーション」というキーワードから考える会議だったのだ。

1980年代、メディアを通じた「疑似現実の消費」が社会の実態だと気付いた人々の間で「シミュレーション」がキーワードになった。しかし、デジタル技術の発達はそのを超え、イミュレーションにまで進んできた。たとえば、AIBOは明らかに犬の動きを「シミュレート」する愛玩ロボットだが、人工生命とは、見かけではなく、自己増殖や自律的な動きなど、生命の「あり方」そのものを模倣する「イミュレーション」なのだ。

もちろん、単純明快な結論が示せるようなテーマでは



ない。しかし、実にアップデートで「渋い」企画ではないだろうか。少なくとも、市民に開かれた「大学の夏期講座」のテーマとして、日本で採用されるようなものではない。

3日間にわたる講演、討議のあとは、ヨーロッパの文化イベントの常で、カジュアルなクラブパーティーが開かれる。今回、会議の内容以上に驚かされたのは、実はそのイベントだった。運河沿いに立つクラブは、何と教会を改造したもので、1階がモダンでスタイリッシュな家具を配置した貸し会議スペース、2階は天井の高さを活かしつつ、居間風にしつらえたラウンジバー空間になっている。普段は会員制クラブとして、音楽や講演などに使われているそうだが、その日は会議のテーマに合わせて、パソコンのゲームイミュレーターと70年代~80年代のオリジナルゲームが比較してプレイできる「テンポラリー・ゲームミュージアム」が行われたのだ。

世界各地で、ゲームをモチーフにしたイベントは多々見ているが、これほど、知的にも美的にも洗練されたものは初めてだ。クラブの来場者も、子供連れから中年まで、バラエティーに富んでいるのが印象的だった。ここで、西欧の文化状況を羨んでいては、明治時代と変わらないことになってしまうが、オランダが天下を取っていたのは400年も前だ。日本も、ビジネスばかりでなく文化に重きを置くようになるまで、あと数百年はかかるのかもしれない。

筆者のプレゼンの様子は下記ウェブサイトで。

www.viceversa.nl/fotografie/games/masuyama.htm

ゲームイベントは下記で見ることができる(オランダ語ですが...)

www.viceversa.nl/fotografie/games/temporary.htm



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp